



1月26日(金) 道徳参観日

＝佐喜浜小の道徳教育の重点目標＝

1・2年	- 勉強や仕事をきちんとする。 - 周りの人にやさしく親切にする。 - 働くことの大切さを知る。 - みんなのために働く。	自立 共生 貢献 貢献
3・4年	- 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、ねばり強くやり抜く。 - 相手のことを思いやり、すすんで親切にする。 - 働くことの大切さを知る。 - すすんでみんなのために働く。	自立 共生 貢献 貢献
5・6年	- より高い目標をたて、希望と勇気を持ち、くじけず努力して物事をやり抜く。 - 分け隔てなく、思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 - 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わう。 - 働くことの意義を理解し、公共のために役に立つことを実践する。	自立 共生 貢献 貢献

道徳は、実践が大事！

道徳の授業で目指すもの・・・小さな発見・大きな納得

毎日の生活の中で、人を大切にしたり、相手意識を持ってふるまったり、社会に役立つことをしようとがんばったりする人たちに囲まれて暮らしていたのであれば、道徳の授業で発見することは、そう多くはないでしょう。

学年がすすめばすすむほど、道徳の授業をしたことによって、「勉強になったなあ」という感覚を持たせる授業というのは、難しくなります。でも、自分の生活とくらべて、「自分だったらこうする」「自分ならそれはしない」など、と心の中で判断し、これからの生活にいかすということは、大いに可能です。今回の授業においても、「新しいことがわかった」という子もいれば、「やっぱりそうだなあ」と納得した子もいたことでしょう。

道徳は、学ぶものというよりは、日々の生活で身につけるものであると、私は思っています。そして周囲の良き環境は、健やかな心身の成長に大きく影響し、子どもの心を耕してくれます。しかし、全ての徳目（人間関係や社会生活上大切なこと）を学び、身につけることができるとは限りません。それゆえ、やはり道徳学習は、学校教育の根幹を為すものであり、その重要性や地位はこれからも揺るぎないと考えます。



1・2年生 大好きな家族



3・4年生 ぼくを動かすコントローラー



5・6年生 手品師 誠実

私は子どものころ、道徳の勉強が好きではありませんでした。なぜなら、いつも先生にわかっていることをはじめて知ったように答えていたからです。小学校低学年の頃は先生に気に入られるようにがんばったし、納得や発見もあったのですが、次第に興味がなくなっていったことを、ほんの最近のように思い出されます。

でも教育者になってそして一応定年を超えた今、これほど大事な勉強はないと思っています。なぜなら、この勉強は、幸せづくりの土台を築くものであるし、ひいては生きる意味をも問う勉強であると考えからです。人は他の人との関係においてのみ、自己のアイデンティティ（存在感）を確立できると言われています。この人と人との関係についての基本を勉強するのが道徳です。ただし、授業の仕方によっては、おもしろくないものになります。だからこそ、私は道徳の授業をどのようにコーディネートするのが楽しいと思います。みんなとフリートークをしながら、考えを出し合い、多角的多面的に教材や事象を読み解き、自分が気づかなかった見方を知り、そして学ばせたい徳目について、「やっぱりこれは大事なことだなあ」と子どもたちが自然に理解してくれるような授業が理想だと考えます。

道徳とは簡単に言うと、人と人との良好な関係を学ぶ勉強＝幸せづくりの土台＝生きる意味を考える時間 と私は結論づけたいです。

1・2年生
いのち・生きることの大切
さについて学習しました

3・4年生
正しいことの大切さとそ
れを認める周りについて
学習しました

5・6年生
思いやりには勇気があるこ
と、また相手への気づかい
について学習しました。

